事例No.	2658
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	デービッド　アトキンソン

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・観光 ・人材確保・育成

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

デービッド　アトキンソン

出典

平成29年度ふるさとづくり大賞事例集

デービッド　アトキンソン　　栃木県日光市

概　　要



アトキンソン氏は、伝統技術の継承は現代では困難が伴う中、民間のマネジメントの発想に加えて、真に価値ある技術や素材を目利きのチームを編成し、事業を展開しており、組織力と人間力の合わせ技で、文化財保護、今日的価値の創造と講演会等により国内外への情報発信を実践している。アトキンソン氏は、国内外の文化財に造詣が深く、裏千家に入門し、茶名「宗真」を拝受するほど日本文化に親しみがある。日本の文化財建造物保存修復技術の海外への普及啓発を行うことが出来る貴重な存在である。

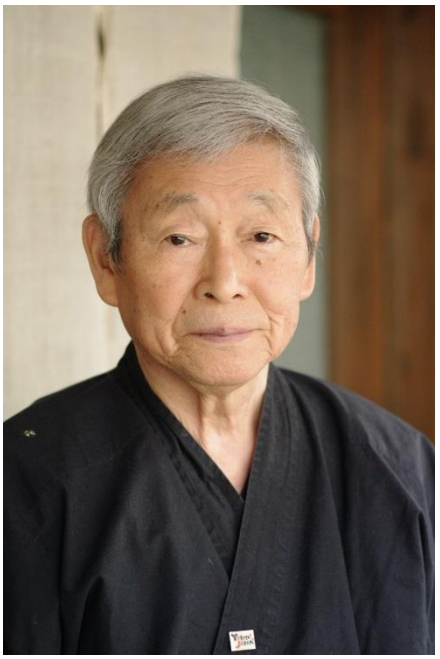
評価された点



・伝統文化を守りつつ、改革が必要なところには鋭く切りこみ、旧態依然とした業界に新たな風を吹かせるなど、しがらみの少ないアトキンソン氏だからこその偉業であり、我が国にとって大変、貴重な逸材。今後も外国人観光客が増えることが予想される中、日本の文化財の今日的な価値を再創造し、国内外へ巧みに発信できるアトキンソン氏への期待は今後、一層高まるとみられる。
・日本文化への造詣も深く、外国人でありながら日本の寺社伝統建築の修繕と補修を行う会社の社長に就任。彼自身の存在が多くの人をひきつけ日本文化の重要性を際立たせた。
・経済優先主義とある意味では反転されて見えて来ていた文化財の修復。大切だけれど「人材・技術・資金」現実的に厳しいという流れの中で、孤軍奮闘する職人集団を経済戦略のノウハウを導入し、実験的段階ではあるが、他分野にも影響力与え始めている。何より若手の担い手へのエールを送る戦略、これこそが日本の宝の修復でもある。
・単なる「よそ者」視点ではなく、日本文化のスペシャリストの目で、地元の人が見落としがちな価値をビジネスを通して発信している点を高く評価。

澤　功　　東京都台東区

概　　要



日本人旅行者の宿泊が、昭和40年代後半から50年代前半に減少したため、旅館は赤字経営となってしまった。そこで、澤氏は、同業者からの勧めもあり外国人を受け入れることを決断した。その結果、受入態勢を試行錯誤しながらも確立し、積極的に情報発信することにより、外国人の宿泊者を増やした。また、その取組を宿泊業関係者に伝道することで、外国人旅行者の受入促進の啓発を図っている。

評価された点

・まさにインバウンド対応の先駆者。また、谷根千の地域づくりのリーダーとしての活躍が、今日の賑わいに繋がっている。
・地域に密着した自主的な取組から始まっているが、経年の中で外国人客と地域をつなげていく活動に発展している。外国人旅行客の受け入れについての取組については非常に有名でありその取組の貢献度は非常に高い。その取組はつとに着目されているが個人としての長年の活動に対して、表彰するに値すると思われる。
・飛躍的に急成長する訪日外国人、その潮流の一翼を担うインフルエンサー達を育んだ功績は実に多大である。その影響力の核は「街でもてなす」という考え方。街まるごと日本の魅力を実践した澤氏の声は、いまや日本の隅々まで行き渡り、「丁寧な当たり前のもてなしこそがグローバルである」ことを証明してきている。日本底力とは、こうした情熱的な市民の力であり、大賞にふさわしいと思う。
・89ヶ国、17万人の外国客が利用した実績、地方の宿泊施設も参考になる。インバウンド獲得の先進事例である。